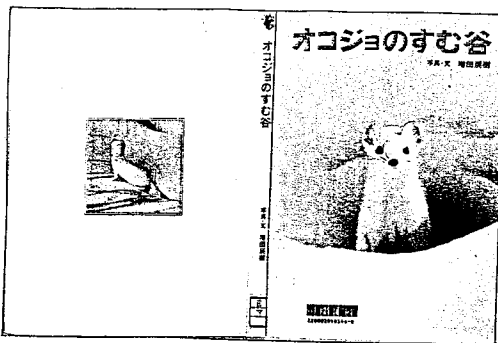


子どもたちといっしょに

写真・文 増田茂樹 (あかぬ)

食肉目イタチ科。別名ヤマイタチともよばれる「オコジョ」は、てのひらにのびまどの小さなけものです。作者が、オコジョの写真をとりたくて山へ入り、何日も待ちつづけてもオコジョにあえなくて、ある日とうとう麓の上をあるという間に走りさっていく数秒の間の写真をとれたこと。作者の近くに姿を見せるようになったオコジョの様子など紹介されていて、かわいいオコジョに会いたくなる絵本です。夏と冬では毛の色がちがいます。この表紙は、冬の白い毛のオコジョで、夏の毛の色は、茶色です。大自然の中で、小さなけものが、こんな風に生活しているんだ。と想像したりして、楽しく読んでみて下さい。



第32回読書会



「時の旅人」(岩波書店)
アリン・アトリー作
松野正子訳
6月15日(日)PM13:30~15:30
於・白根学習会館1階42
ペネロピという少女が、二つの
時代を往復するとても面白い
物語です。(しろね図書館 共催)

=図書館から=
いつもご利用ありがとうございます。
この日は、皆さんとてもマナーも良く嬉しく
感じています。が、時々、学習する学生さん
達がかなり大きな声で話をされていて、
ソファに足をあげて寝ころんでおられる成
人の方がいらっしゃいます。小さい子ども達に
模範となるよう、よろしくお願い致します。

6月の行事

ブックバス

ブックバス

1 (日)	第32回子ども本講座① 10:00~	18 (水)	あかぬが読みあそび会 絵本のじかん3:00 ③
4 (水)	絵本のじかん3:00~	19 (木)	新飯田小 12:55~13:40 次男小 14:10~15:30
5 (木)		20 (金)	白根中 12:55~13:35 左 14:00~14:40 右 15:00~15:45
6 (金)		21 (土)	白根中 13:00~14:00 左 14:30~15:15
7 (土)	おはなし会3:00~	22 (日)	大通地C 14:30~15:00 榎岸小 15:30~16:00
11 (水)	絵本のじかん3:00~	25 (水)	榎岸小 13:20~14:00 大通小 14:20~15:40
12 (木)		26 (木)	白根中 13:00~14:00 大通小 14:30~15:30
13 (金)		27 (金)	白根小 13:00~13:50 小太小 14:30~15:30
14 (土)	おはなし会3:00~	28 (土)	新飯田小 14:30~15:00 ア松公 15:30~16:00
15 (日)	第32回読書会	29 (月)	長岡市図書館友の会 当館友の会の交流会

しろね図書館だより

No.37

発行 白根市立図書館
平成15年6月1日

その子二十^{はたち}櫛^{くし}にながるる黒^{くろ}髪^{かみ}のおごりの春^{はる}のうつくしきかな
「女^{おんな}をかし^{をかし}と謝^{あやま}野^の晶^{あき}子^こ」(神奈川)
この歌は、与謝野晶子が「明星」に発表したものである。青春を賛美し、
誇示する歌である。髪の色は、少し違うが、5月3日ラスベックホールに集った
若者達も、おごりの春の美しさに酔い知れていたのではないだろうか。誰も
が通り過ぎてきた青春の、自信に満ちた美しさを、そのまま、まっ直ぐにのびして
いってほしいと、すべてのおとなが願った「歳入式」であった。

5月の
来館者-----13,326人(視察)
貸出冊数-----12,803冊
予約件数-----207件



ブックバス利用者-----686人
ブックバス貸出冊数-----1,897冊

リクエスト情報(しばく
おぼろ下はい)
1位・千と千尋の神隠し(12名)
2位・ハリ・ポッターと炎のゴブレット上(7名)下(8名)
3位・蟹門島上(2名)下(3名)
4位・奪還(3名)
5位・ダレンジャン(1名)4巻(1名)7巻(1名)
*4位の奪還は、蓮池秀さんの著書です。

おもしろかった 自分^{あなた}の本^もが出せる 講座
しろね図書館友の会
講師3人(関根省三氏・笹川博仁氏・阿部隆一氏)
に、役講師7人の、せいたくな、かつ中味の濃い
講座であった。講師3人は、最近ジャズの本を出
して、大いに盛り上がっているところなので、話も、お
もしろかった。出そうという気さくであれば、誰で
も自分の本が出せる世の中になった。
□自分史 □家族新聞のまとめ □子どもの作文
や絵のまとめ □俳句・短歌・詩 □写真集 etc.
何でも出来るそう。費用も、そんなにのからな
いという。お問い合わせは、図書館まで372-5510
事務局を担当している図書館まで。

『少女探偵サミー・キーズとホテル泥棒』（集英社）

ウエンデルン・V・ドラーネン 加藤洋子 訳

中学1年生の女の子、サミー（サマンサ）・キーズはわけあっておばあちゃんと二人暮らし。向かい住人のグレイビルさんは怪しんでいるけれど、でもほかの人にはそこに住んでいることはないしょ！だって政府が管理する高齢者専用マンションだから。いつも外に出て行くときには用心しなければ見つかって追い出されてしまう。そこで、サミーは非常用階段のロックにガムをつめてそこから出入り。

学校に行くのにとくにおしゃれもしないし、いまどきだれも履いていないハイトップのスニーカーを愛用して、趣味といえばおばあちゃんの双眼鏡でのぞき？をすること。

夏休み最後の日、いつものように部屋の窓から双眼鏡で街中ののぞきをしていたら隣のホテルに泥棒が！黒い服に黒い手袋、おまけにバッグの中をあさって、大金をポケットに入れていたから間違いない。しばらくそのようすをながめていたら双眼鏡越しに泥棒と目があって…普通ならここでおばあちゃんに言うとか警察に連絡とかすると思うのだけど、サミーはなにをしたと思います？…泥棒に手をふったんです！！泥棒に手を振るなんて普通だれがします？でも振ったんです。

次の日、新学期早々…もっとくわしく言うと、学校へ来てほんの数時間後、クラスメイトのちょーむかつく女の子ヘザーとけんかになり、ヘザーを鼻パンチでノックアウト！けんかをしかけてきたのはヘザーなのに、それからカーン先生に目をつけられボックス（お仕置き部屋）行き→停学1日…。なんてついてない入学式。

停学中サミーはホテルで捜査している警官に自分が見たことを伝えますが、子どものうそだと馬鹿にされ、取り合ってもらえないしまつ。ここは自分で泥棒を捕まえようといういろいろ推理を働かせ、“クール！”が口癖の親友マリッサと一緒に犯人探し。そしてショッピングセンターの屋上でマリッサとダブルダイナモ（アイスクリーム）をベトベトになりながらほおばっている最中、ビビビッとついに犯人がひらめきます。そして教会のマリア像の前でおびき寄せる罠を仕掛けますが…。

心配性でやさしいおばあちゃん。おせっかい屋だけど実は寂しがりのグレイビルさん。超お金持ちだけど親の愛に飢えている親友のマリッサ。髪の毛が炎みたいな色で、両方の耳に合わせて10個もピアスをつけているヘザー。目が見えないし耳もよく聞こえないけどおつりは正確なアイスクリーム屋のオスカー。サミーの周りには個性豊かな人物が盛りだくさん。

さー犯人はだれ？

テンポが良くユーモラスに溢れた文章がみなさんを本の中に飛び込ませてくれます。

みなさんもサミーと一緒に犯人を捕まえられるかな？

ティーンズコーナー [933 頁]

司書 小林 友治

第三十一回 読書会

五月十八日（日） 午後時半より

◆参加者 七名◆

『シエッタ夫人の肖像』

E・L・カニグズバーク

★ お話はレオナルド・ダ・ヴィンチの名画「モナリザ」の謎に迫ります。謎は…

『なぜ、レオナルド・ダ・ヴィンチは、よりによって、フィレンツェの名もない商人の二番目の妻の肖像を描いたのだろう？』

『その答えをさっさとにぎるのがうそつき、どろぼうのサライ』
なのか？

…の二つ。

これが、いきなりプロローグで語られるわけですから、サライに惹きつけられるのも当然。と言えば当然のことなのかもしれません。浮浪児のサライがダ・ヴィンチの弟子となってしまうわけだし、サライにどんな才能が隠されているのかと思ってしまうはず。

私はこのどろぼうで、うそつきのサライに強烈に惹かれてしまいました。参加された方の中にも同じように、思った方もいましたが、公妃ベアトリチェにも強く惹かれたそうです。

★

謎を解く隠れた重要人物となるのが、公妃ベアトリチェ。サライは美しい少年でしたが、彼女は美しいとは言えないけれども、機知に富んだ女性でした。芸術という美しいものに人々が集まる時代の中で、美しいものと、そうでないものを見分けるものさしを持っていたベアトリチェにサライとダ・ヴィンチは意気投合。そして、彼女はサライにダ・ヴィンチにはあなたが必要だと語ります。サライの野放図で無責任な所がダ・ヴィンチを完壁なものにしている。

この言葉は参加者の心にも残ったようでした。

★★★

そう、本書を読めば、サライが教養はないが、愚かではなく、知識はないが、知恵はあることに気づくと思います。彼は機知に富んだ意見を吐きダ・ヴィンチを助けたが、師のアイディアを盗み商売にする子供のような幼さ、無責任さになぜか憧れ？惹かれます。

これこそが、ダ・ヴィンチの才能が輝くために、ベアトリチェが背負わせた義務。

「想像を膨らませながらも、楽しんで読めた。サライにはいつまでも、このまま大人にならずにいて欲しい。」 参加者」

★★★

「レオナルド・ダ・ヴィンチは公妃ベアトリチェが本当に好きだったのでは…。」
当然、サライも。だからこそ、彼女の内に秘める美しさを人々に知ってほしくなかった。

参加者」

「物事の真実を見据える事ができたサライの才能に気がついた、ベアトリチェだからこそ彼は描けなかったのかもしれない。」 参加者」

「本書を読んでから『モナリザ』をみて欲しい」 参加者」

これで謎は解き明かされたとはいえませんが、サライが握っている謎とは？この先は読んで確かめてみてください。

次回は六月十五日（日）

「時の旅人」アリスン・アトリー作
どうぞご参加ください。

「大野 恵子」



咲き誇っていた図書館のボタン